

「切り替え運用」に関する現場技

CA Technologies

実運用を見据えた現場技10連発

「ネットワーク」 に関する現場技

- 1、レプリケーション中に回線障害が起きたら？
- 2、スプールディレクトリに関する注意点
- 3、帯域制御機能の活用
- 4、レプリケーションに必要な帯域幅を見積もる

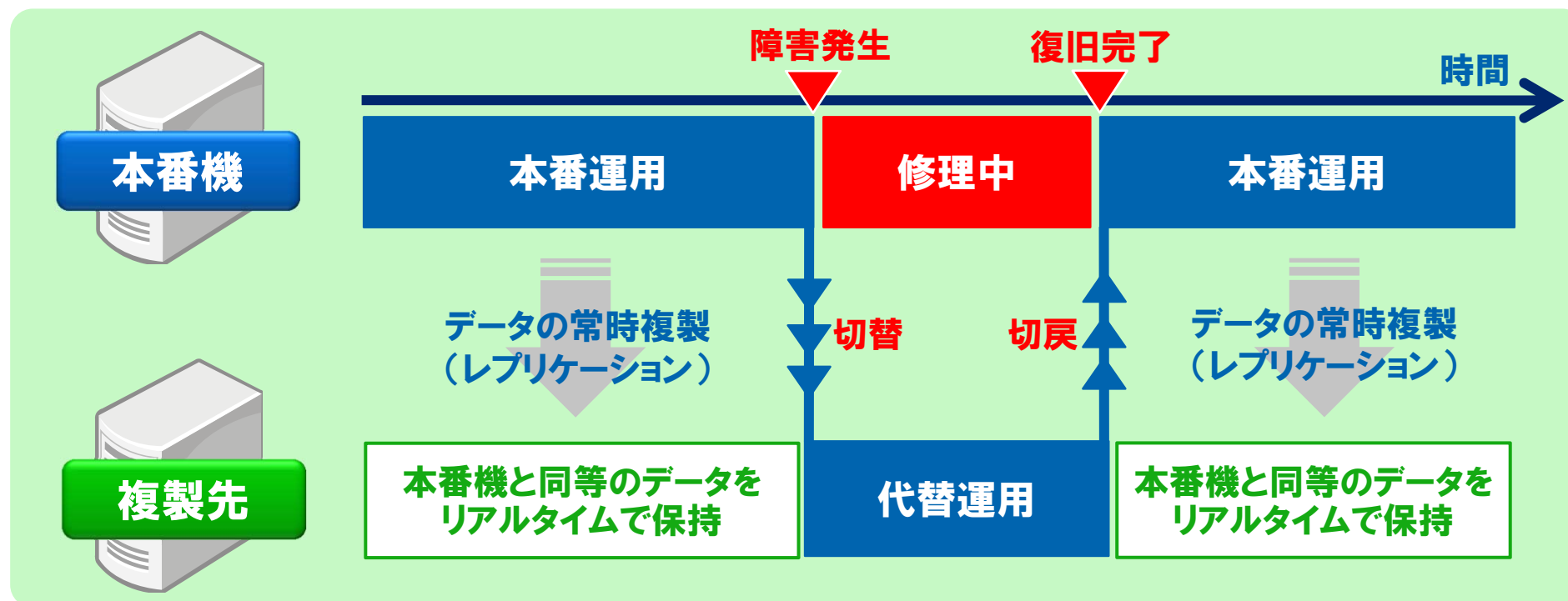
「同期」 に関する現場技

- 5、同期はいつ行われる？
- 6、同期にかかる時間
- 7、ホストメンテナンス機能で再同期せずに再起動

「切り替え運用」 に関する現場技

- 8、レプリカサーバを使って「とりあえず」運用
- 9、リストア機能でマスタに運用を切り戻し
- 10、クロスレプリケーションでサーバの設置台数を節約

8 レプリカサーバを使って「とりあえず運用」



Point 1

アクセス権のレプリケーションが可能！
「ACLのレプリケート」と「Windows 共有を同期」機能でレプリカサーバを即座に使用できます。(Active Directory環境のみ)

Point 2

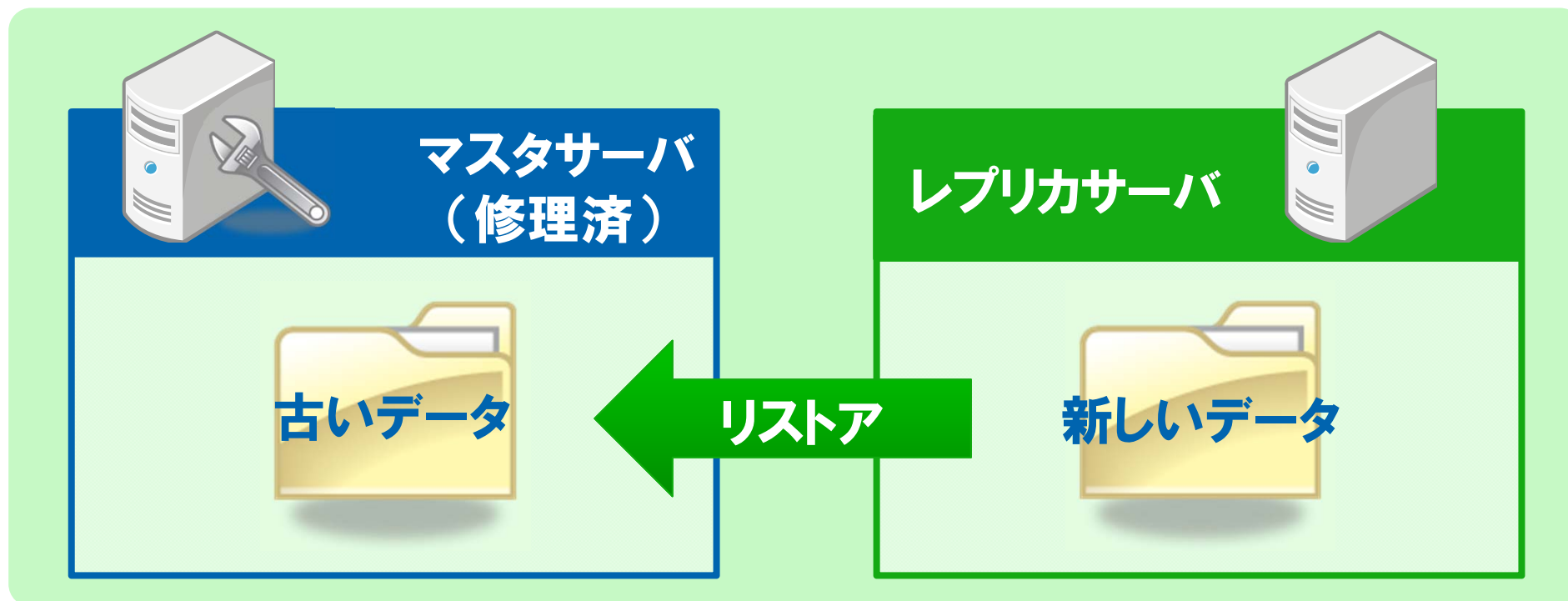
平常時はレプリカサーバは「使用禁止」
データの不一致を生じさせないために、平常時はフォルダ共有を無効にするなどして、レプリカを変更から保護してください。

アクセス権のレプリケーション



デフォルトでACLと
共有設定を複製

9 リストア機能でマスタに運用を切り戻し



Point 1

リストアは逆向きに同期を行う処理

同期と同様、業務時間内には行わないください。また、これも同期と同様差分のみを転送し、完了までの時間も同程度かかります。

Point 2

必ずシナリオを止めてから実行

リストアはシナリオが停止しているのを確認してから実行。シナリオの実行中には行えません。